

現代アメリカ英語日常語辞典

山田 政美*・吾郷 由希**・細田 大輔***

Masayoshi YAMADA, Yuki AGO and Daisuke HOSODA
A Dictionary of Commonplace Words in Present-Day
American Real-Life Contexts

Abstract

[キーワード：アメリカ英語，アメリカ文化，辞書学，社会言語学]

はじめに

0. 山田・田中(1988)，山田・田中(1989)，あるいは山田・田中(1996)などで，アメリカ英語を中心に現代英語文化が日常語にどのように反映されているのか，しかしその言語文化の研究が行き届かないがために，辞書を始めとする文献にどのような記述の不備が生じているかを具体的に指摘し，訂正をしてきた。

日常語そのものを取り上げるのは，それが現代アメリカ文化を理解する上で最も基本的な手がかりであり，しかし基本的であるが故に一見分かったものとして扱うという誤解があって，結局は精密な研究から抜け落ちていたものである気配が強いからである。山田(1997)は，それに関連して飛田(1997)の杜撰さを指摘したところであった。また，確かに，田崎(1994)は『アメリカ日常語辞典』として編さんはしたが，極めて個人的好みが行先したところがあり，有益な情報も提供されてはいるが，無益な記述も少なくないことは，山田(1994)で厳しく指摘した。

この間，一体アメリカ英語を母国語とする者が，その言語文化を学習しようとする者にとって必要な現代アメリカ英語の日常語とはどのようなものがあると考えてい

るのかについて興味があった。この2年間，大学院「英語学特論・演習」の中で，執筆者はそれぞれ毎回独自の調査に基づくペーパーを作成し，議論を繰り返す，問題点を整理してきた。

この時，われわれの視点に近いものではないかと思われるものがBertram(1997)で，そこで収録され，試みられた記述をいくつか検討し，誤りの訂正や，より意味のある記述を提案してみることにした。あるいは，山田が独自の問題をリサーチ課題として吾郷と細田に与え，新たな言語文化事実の発掘を試みてきた。

Bertram(1997：vii)は，その編集目的を以下のように述べる：

This is a dictionary about the commonplace things and activities associated with getting along in modern American society. Gadgets and machines in the home and workplace, as well as the vehicles that take us from home to work, present hundreds of special terms necessary for survival in the modern world. This dictionary includes terms commonly encountered in instructions for practical, everyday tasks, such as home maintenance, yard work, TV, VCR, and stereo operation, car repair,

cooking, and computer use. The up-to-date word list deals with sewing, communications, plumbing, gardening, sports, hair care, construction, tools, kitchen appliances, travel, safety, and electronics, among other topics.

われわれが必要と考えるような日常の基本語彙の範囲をかなりの部分カバーしていると考えてよい。トピック別収録語彙を整理してみると、以下のようになる：

Appliance	103	Automotive	220
Bathroom	67	Bicycle	45
Camera	39	Chemical	110
Child Care	14	Cleaning	94
Climate	47	Clothing	192
Communications	82	Computer	170
Construction	211	Dishes	72
Electrical	87	Electronics	172
Food	505	Furniture	91
Garden	74	Hair Care	18
Hardware	292	Health	83
Home	1220	Kitchen	638
Linens	41	Machinery	20
Mail	19	Materials	82
Measure	97	Music	61
Office	90	Personal Care	101
Pets	3	Plumbing	59
Printing	57	Recreation	28
Safety	41	Security	16
Sewing	72	Shopping	70
Sports	16	Stationery	35
Structure	131	Travel	67
Weapon	34	Weather	8

以下では、項目に続いての定義と例文はまずBertram (1997)によって示し、続いてわれわれの議論や資料を提示する。

1. adhesive

接着剤。□What kind of *adhesive* should I use to fix this plastic cup? このプラスチックのコップを直すにはどんな種類の接着剤を使ったらいいですか? □Epoxy is a powerful *adhesive*. エポキシは強力な接着剤だ。

「接着物(のり・にかわ・セメントなど)」(『カレッジライトハウス英和』)には疑義がある。

実際のアメリカ文化の中では、ここで名指しをされた

*Epoxy*の他に、*Krazy Glue* (Borden社) などを知る必要がある (山田1990; 山田1996)。

Monique Jr. limped into the dressing room with a broken heel, which Shad fixed with Crazy Glue. [下線は筆者]

—Carl Hiassen, *Strip Tease*. Warner Books, 1993, p. 276

モニックJr. がこわれたヒールでよろよろと楽屋にはいってくると、シャドは強力接着剤クレイジー・グルーで修理してやった。[下線は筆者]

(北澤和彦訳『ストリップ・ティーズ』(下), 扶桑社, 1995, p. 108)

日本語訳では、訳者の試みが読者の理解を助けるようになっていて、商品名を単に片仮名標記に書き替えるだけではなく、その商品が何物であるかが分かるように「強力接着剤」という説明語を補ったわけである。翻訳の一つの方法として、歓迎してよい試みである。

ところが、原著者に誤解があって、この商品名の「クレイジー」の綴りが、*Krazy*であることに気付かなかった。日本語訳には現れない問題である。



2. cordless drill

コードレス電動ドリル。□When you're done with the *cordless drill*, put it back in its bracket and let it recharge. コードレス電動ドリルを使い終わったら、元のブラケットに戻して、充電状態にしておきなさい。□This *cordless drill* is very convenient. For one thing, there's no cord for me to trip over. このコードレス電動ドリルは便利そのものだ。ほくにはつまずくコードが無いんだから。

コードレス電動ドリルを最初に考案したのはBlack & Decker社で、山田 (1990) を参照されたい。

From his waistband Shad pulled a *Black & Decker cordless drill* with a 1/4 inch steel bit.

—Carl Hiassen, *Strip Tease*. Warner Books, 1993, p. 118

ウエストバンドからシャドは1/4インチのスティール刃が付いたブラック・アンド・デッカーのコードレス電動ドリルを引き出した。



1946

Black & Decker introduced the Home Utility line which offered popularly priced drills and accessories for the do-it-yourself market.



1950

The one-millionth 1/4" Home Utility drill came off the assembly line, a milestone in the Company's manufacturing history.

3. elevator music; Muzak

エレベーター・ミュージック [ソフトで、穏やかなバックグラウンドミュージック。時に軽蔑的]。□I hate the *elevator music* they play in the doctor's waiting room. 医院の待合室で流れているあのエレベーター・ミュージックは好きではない。□*Elevator music* was piped into the store. その店にはエレベーター・ミュージックが有線放送で送られた。

もちろん、NDASは“Bland, pretty music, of the sort played over speakers in elevators”として収録するが、Lighter (1994) には見当たらない。

Erin raised a hand. “Mr. Orly, the style of our dancing depends on the music.”

Orly mentioned with the can. “Go on.”

Erin said, “If the songs are fast, we dance fast. If the songs are slow, we dance slow—”

“We’ve been through this before,” he cut in.

“You wanted to pick your own songs, and I says fine on condition that they’ve good hot dance songs. But some a this shit. I swear, it’s *elevator music*.”

Urbana Sprawl said, “Janet Jackson, Madonna —I don’t call that *elevator music*. Paula Abdul? Come on.”

—Carl Hiassen, *Strip Tease*. Warner Books, 1993, pp. 18–19

エリンが手をあげた。「ミスター・オーリー、あたしたちのダンスのスタイルは音楽にもよるのよ」

オーリーは缶を振ってうながした。「で」エリンは言った。「歌がはやけりゃ、ダンスもはやくなるわ。歌がスローなら、ダンスもスローになって—」

「その話はまえにもしたな」オーリーがさえぎった。「あんたは自分で曲をえらびたがって、おれはホットなダンス曲ならかまわんといった。だがな、はっきりいつとくが、何曲かは、耳ざわりがいいだけで個性のかけらもない音楽だ」

アーバナ・スプロールが、「ジャネット・ジャクソン、マドンナ—個性がない音楽とはいえないでしょ。ポーラ・アブドゥルは？やめてよ」[下線は筆者]

(北澤和彦訳『ストリップ・テイズ』(上)。扶桑社, 1995, pp. 35–36)

このような音楽を有線で流す会社がMuzak(Seattle, Washington)で、その種の“Sweet and bland background music; uninteresting taped music.”[NDAS]の意味でこの商標名を使って *Muzak*, または *muzak* (ミューザク) で表す。

□“I’d like to get *Muzak* for my waiting room,” said the dentist. 「待合室にミューザクを入れたいと思っている」と歯科医は言った。□“The conversation in the restaurant is so loud that you can hardly hear the *Muzak*,” the waiter observed. 「レストランの中での話声が大きくて、ミューザクがほとんど耳に届きません」とは、ウェーターの話だった。

Muzak® は、この会社が設立された60年も前の頃は、単にバックグラウンドミュージックを提供する会社であったが、今日では人工衛星を利用して各種の分野の音楽を提供している。

MuzakはEnvironmental Musicと呼ぶカテゴリーで、いわゆるバックグラウンドミュージックを提供するプログラムを持っているが、このバックグラウンドミュージックというものを考え出したのはGeorge Squier(米国陸軍の‘two-star general’)で、1922年のことであった。Squierは、電線を使ってレコード音楽を放送するアイデアに特許権を取った。間も無く、設備会社のNAC(North American Company)がこの特許を買収して、Wired Radio, Inc. を設立した。1934年、NACはCleveland (Ohio)

で新たにMuzak Corporationの放送音楽の事業を開始した。Clevelandで成功を収めたため、ニューヨーク市での実験を始めて、電話線を使つてのコマーシャル無しのラジオ放送でGotham Hotelのロビーとダイニングルームへの音楽の配給を行った。この試みが暖かく受け入れられて、これによって東海岸から西海岸までの範囲での事業の拡大を考えるようになった。これに注目したのがWarner Brothers社で、1938年にMuzakとNACのフランチャイズ店を買収したが、翌年Encyclopedia BritannicaとWilliam Benton(U.S. Senator)に売却してしまった。戦時中は、全米の工場などで、作業中に流す音楽の効果が重要視されて、戦後にもその効果の故に事業が拡大することになった。

仕事の能率が下がる時間帯(午前中の終わり頃と午後半ば)には、テンポの早い音楽を流すと能率が上がる事が分かって、このための音楽Stimulus Progression[®]が開発された。1940年代、50年代にはMuzakはもはや“household name”になり、航空機や旅客船にも採用されてきた。1950年代の技術の発達によってM&Rが開発されると、それまでのレコードを使用する方式からテープに切り替えられた。1957-72年間に、Muzakは広範にわたるミュージックライブラリを完成させ、TelePrompeter Corporation に買収され、1980年までには新しく人工衛星による放送・配給を行うようになった。1981年にWestinghouse Corporationに買収されると、オリジナルアーティストによるオリジナルミュージック、つまり“foreground music”を放送・配給することになった。この音楽のチャンネルをForeground Music One[®]と名付けた。1987年にはSeattleの“foreground music company”であるYescoと合併し、Seattleを本拠地とした。1995年にインターネット上にホームページを開設した(<http://www.muzak.com>)。現在では60チャンネルから選択できるほどの各種の音楽を提供している。



2901 Third Avenue
Suite 400
Seattle, Washington 98121

別の呼び方では、この種の音楽を有線で流すことから *pipéd music* とも呼ぶ。

□The *pipéd music* in the doctor's office was coming from my favorite radio station. その医院で流されているパイプトミュージックは、私の好きなラジオ局からの

ものだった。

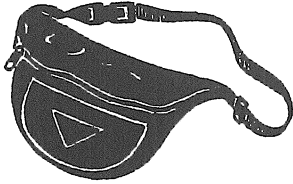
4. fanny pack

ファニー・バック：腰の辺りに付けるバッグ(人によってはお尻の辺りに付ける。FANNYは、米俗語で「お尻」(buttocks)の意味) □The cyclist put her wallet into her *fanny pack*. そのサイクリストは財布をファニー・バックに入れた。□Instead of a purse, I use a *fanny pack*. 私はハンドバッグではなくてファニー・バックを使っています。

すでに山田(1993)はこの表現を検討したが、英和辞典では記述が乱れているのが困る。

- (i) AmEのレーベルが必要である。BrEでは、*bumbag*, *bum bag*が相当語である。¹⁾
- (ii)「お尻のすぐ上に背負うかばん」(『ランダムハウス英和大』)の下線部の解説は誤りである。
- (iii)何を入れるのかについて、概ね“for carrying money, keys (and other personal possessions) [CIDE] がよい。次の例文は面白い：When Pedro rides his bike, he puts his money and some crackers in his *fanny pack*. [NHD] [下線は筆者]
- (iv) AmEでは、この他に：*belly bag*, *belt bag*, *front-loader* (山田 1993), *rumptaske*(AS 65:1, 『リーダーズ・プラス』²⁾), *bike bag* (飛田 1997) などもある。
- (v) 英和辞典は、「ウエストバッグ [ポーチ]」の日本での呼び方を充てている。
- (vi) 書かれた初例は、AS (65:1) では1971年のものがあり、*RHWCD* は [1970-75] と記述する。*bum bag*はBrEではもっと以前に、1950年代にスキーヤーの間で使われたという [*Chambers 21st*]。
*fanny belt*は、スキーパトロールをする人達の間で使われ始めた(“the belt on which ski patrol men carry their first aid kit”, AS 38:2, 1963) という。

(Br)bumbag /
(Am)fannypack /
(Am)waist pack

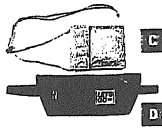


-CIDE



fanny pack

-NHD



Undercover NeckPouch
Ripstop nylon with soft Cambrelle back.
3 pockets. 6 1/2 x 5". Lifetime
guarantee. Black or Tan.

C \$9.95

Undercover WaistPouch
Ripstop nylon with soft Cambrelle back. 2
pockets. 12 x 5" with 30 x 13cm waistband.
Lifetime guarantee. Black or Tan.

D \$9.95

-Let's Go: New York City. 1993.
New York: St. Martin's Press

5. garbage can, garbage pail; trash can

ごみ(garbage)を集めておく容器。□He threw the coffee grounds into the *garbage can*. 彼はコーヒーの出し殻をごみ入れに投げ込んだ。□I carried the full *garbage pail* out to the Dumpster. ほくは一杯になったごみ入れを外のダンプスター³⁾のところまで運んで行った。□He picked up the litter from the street and put it into a *trash can*. 彼は散らかったごみを通りから拾い上げると、ごみ入れに入れた。

確かに、RHWCDなどは、*garabage can*は、

a container, usually of metal or plastic, for the disposal of waste matter, esp. kitchen refuse.

であり、*trash can*は、

a container for the disposal of dry waste matter.

と、*garbage*と*trash*の通例の区別に従った定義である。不思議なことに、インフォーマント調査をしてみると、日常的にこのような区別をしていないと反応する。したがって、ごみ入れも、この言い方は‘interchangeable’であると言う。われわれは少し‘rigid’に解釈してきたのではな

いかと思われる。商品広告を見ると、通例屋外に置いておく大きなごみ入れは、風などでも吹き飛ばされないような蓋付きで、*trash can*で売られていることが分かる。Bertram (1997)が、何の断りもなく前述のような書き方をしているのも無理はない。

NHDが次の例を示す：

I put the garbage from last night's party in the trash can this morning. (s.v. *garbage* 1) [下線は筆者]

- (i) かなりの大きさがある (何ガロン入れであるかで分かる)。これらのごみ入れが、プラスチック製であったりブリキ製であること。
- (ii) 蓋は、屋外に置くことが多いので、風で吹き飛ばされたり、動物に荒らされたりしないように‘snap-on lid’が付いていたり、‘tight-on’であることが普通である。
- (iii) 中身が重たくなっても移動しやすいように‘trash can on wheels’⁴⁾と、コマ付きのものもある。

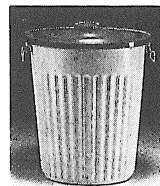
- (iv) 1) Shad went to Sears and purchased two jumbo outdoor *garbage buckets* with clip-on lids.

-Carl Hiassen, *Strip Tease*. Warner Books, 1993, p. 334

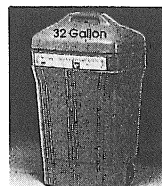
シャドはシアーズへ行って、クリップで留める蓋が付いた屋外用の大型のごみ入れバケツを2個買った。

2) Deftly he barehanded the squealing animals, and dropped them one by one into the jumbo *garbage pails*. - *Ibid.*, p. 334

彼はきーきー鳴いている動物 [ネズミ] を手早く素手で掴むと、一匹ずつ大型ごみ入れの中へ放り込んだ。



10-gallon trash can. \$3



32 Gallon trash can on wheels. \$11



Houseware Dept. Special buy \$2 6-gal trash container. Tight-fit snap-on lid.

6. hand towel

ハンドタオル [顔・手拭き用の長方形のタオル]。

□The hotel was equipped with a bath towel, a *hand towel*, and a wash cloth for each guest. ホテルには、お

客様めいめいに、バスタオル1枚、ハンドタオル1枚、そしてウオッシュクロス1枚のセットが備えてあった。□I bought a set of *hand towels* to match my bath towels. バスタオルとお揃いのハンドタオルを1セット買った。

この極めて日常的なタオル類の呼称が、特に英和辞典では混乱し、誤っているものが多い。AmEとBrEの相違もその混乱に拍車をかけている。山田(1995)を参照されたい。

6.1 washcloth, washrag

ウオッシュクロス, ウオッシュラグ[浴室で顔や身体を洗うときに使う四角い洗い布]. □I worked soap into the *washcloth*. 私はウオッシュクロスに石鹸をすり込んだ。

Bertram (1997) は, *washrag* は‘folksy’な呼称だとする。これに相当するBrEは, “facecloth; (face) flannel”である(cf. Trudgill and Hannah 1994²)。



[バスルーム用タオルセット]
(*The Lawrence-Journal World* の広告から)
(山田 1995)

6.2 guest towel

ゲストタオル [来客用にバスルームに備える手拭き用のタオル]. □The *guest towels* had the family name embroidered on them. そのゲストタオルには、その家の名前が刺繍してあった。□The fancy *guest towels* had lace edgings. I was almost afraid to use them. その素敵なゲストタオルはレースで縁取りがしてあった。使うのがこわいほどだった。

これらの混乱にさらに輪をかけるのが、台所で使用する *dish towel* と *dishcloth/dishrag* である。食器類を「拭く」ものが *dish towel* であり、食器類を「洗う」ときに使うも

のが *dishcloth/dishrag* である (*NHD* の定義と例文がよい)。ここでもまた、BrEと混乱する。BrEでは *dish towel* は *tea towel* と呼ぶ。この英米の呼称の混乱を如実に表したものが *LDCE*³ の挿し絵(p. 689, s.v. Kitchen)であって、笑って済まされない。

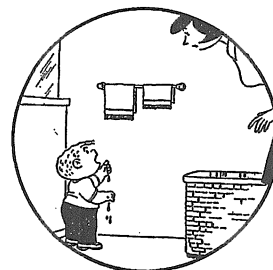
6.3 finger towel

フィンガータオル [手を拭くための小さなタオル].

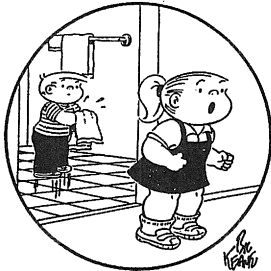
□She put out fresh *finger towels* for her guests to use. 彼女は、お客達に使ってもらうために新しいフィンガータオルを差し出した。□I bought some special holiday *finger towels* with “Happy New Year” embroidered on them. 「ハッピー・ニュー・イヤー」と刺繍がしてある特別仕立てのホリデイ用のフィンガータオルを何枚か買った。

『ランダムハウス英和大』は *fingertip towel* で「お客用の小タオル」として収録している (*finger towel* とも呼ぶことも注記してある)。Bertram (1997) と共に、この定義や解説や例文では何の役にも立たない。

しばしば装飾を施してある小さなタオルで、来客用のバスルームや、あるいは食卓で使われるもの。 *fingertip towel* は *finger towel* より小さい (1'×15" ぐらいの大きさ) だとする者もある。特にアメリカの地域的分布の片寄りはないが、主には女性が使う呼称。 [DARE]

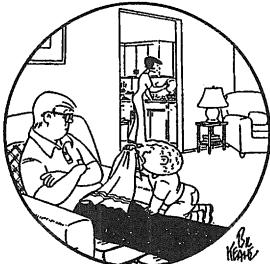


"Can I use that towel, Mommy, or is it just for people?"
-Bill Keane, *Family Circus*
["...is it just for people?" は *guest towel* を示唆する]



"Billy's usin' a guess towel!"

-Bil Keane, *Family Circus*
[Gayle が guess towel と言
うのは, guest towel のこと]



"It's from Mommy — a dish towel."

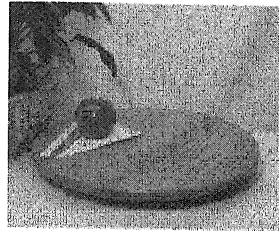
-Bil Keane, *Family Circus*
[Jeff は食器洗いをしている母から
言いつかって, 父に食器拭きをして
もらうために持ってきたのは dish
towel]

7. Lazy Susan, lazy Susan, lazy susan

レイジー・スーザン [食卓に置く丸い回転盆]. □I keep all my spices on a *lazy susan*. 私はスパイスはみんなレイジー・スーザンに載せています。□The host arranged a number of dishes on the *lazy susan*, and we turned it to help ourselves to whatever we wanted. 家の主人はいくつかの料理の載った皿をレイジー・スーザンの上に並べ, 私達はそれを回転させて好きな料理を取っていただいた。

小型の (例えば15"×18") レイジー・スーザンには調味料などを載せるが, 皿に載せた料理を置く大型のものもある。

中華料理店で見かけるような, 丸いテーブルの上に大きな回転盆が付いたものは, *Lazy Susan table* と呼んで実は古く1851年の London の Hyde Park で開催された Great Exhibitionの際に, John Calderが出品したデザインだったという(Gloag 1990)。



LAZY SUSAN

Solid oak.
size: 15" or 18" diam
code: 15LSO or 18LSO

この呼称の由来は, "eponyms"として扱われていて, この場合もHendrickson (1972) などが得意とする。

BrEでは, もっとあからさまに *dumbwaiter* と呼ぶ。

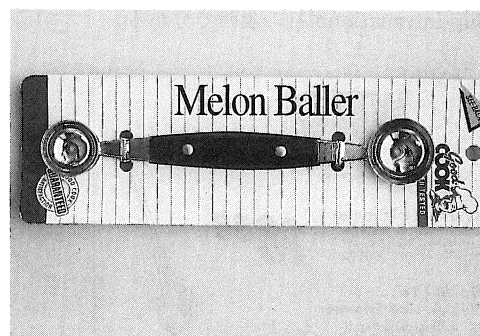
宝石店で見かける, 時計・宝石などを載せた回転式商品陳列台は *lazy Susan display* と呼ぶ。

主にアメリカ東海岸諸州には, 花の中心部が黒いオオハンゴンソウ属の *yellow daisy* のことを, *lazy Susan* と呼ぶところがあるので注意が肝要である [DARE]。

8. melon baller

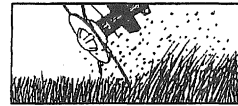
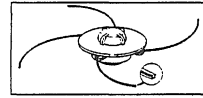
メロン・ボーラー [メロンやその他の果物を小さなボールの形に削りぬくきじ型の料理道具(scoop)]. □I scooped out cantaloupe balls with the *melon baller*. 私はメロン・ボーラーでカンタロップのボールを削りぬいた。□*Bill*: How did you make the potato balls in the soup? / *Jane*: I used a *melon baller*. ビル: このスープの中のポテトのボールはどうやって作ったの? / ジェーン: メロン・ボーラーを使ったの。

例文で, カンタロップが削りぬかれたとあるのは, サラダに使ってあることを思わせる。パンチ(punch)に入れる果物にも使われる。スープの中に削りぬいたポテトが入っているのもおもしろい情報である。



9. Weed Eater

(商品名)ウイード・イーター [狭い場所で芝生のトリミングをする機械]. □“Run the *Weed Eater* around the edge of the lawn,” I said to the young man who was mowing the lawn for me. 「芝生の縁まわりはウイード・イーターでやってね」と、うちの芝刈りをやってくれている青年にそう声を掛けた。 □“This *Weed Eater* is great for keeping grass trimmed along the sidewalk. You ought to get one,” said Joe. 「このウイード・イーター、歩道沿いの芝生の縁取りには最高。君のところも買ったらいいぞ」と、ジョーは言った。



Beaird-Poulan/Weed Eater [of Emerson Electronic Co.](Shreveport, Los Angeles)社製の“power trimmer/edger”を指す。芝刈りをして困るのは、歩道沿いの縁刈りや、樹木の根の辺りで、その場合に役立つのがこのナイロンコードを回転させ、刃として使うもの。電動のものや、原動機付き(gas-powered)のものがある。一般には、*edger*, (*string*)*trimmer*, *line trimmer*などと呼ばれる。Bertram (1997)は、俗語では*weed whacker*とも呼ぶという。

□When I was done with the lawn mower, I got to work with the *edger*. 芝刈り機が済んだら、次はエッジャーを使って作業をした。 □Use the *weed whacker* to trim the grass around the base of the tree, 木の根元の回りの芝を刈るには、ウイード・ワッカーを使いなさい。

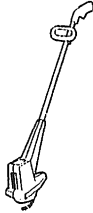
エンジンの馬力とか、機械の機装などの違いで、20ドル前後から750ドル近いものまで、価格に開きが大きい。

ナイロンコードを使った機械の先端部分(head)は、Weed Whip International社の説明で分かる。

WEED EATER
TRADEMARK

No. 3078"
Nylon Line Trimmer
Trims small to medium size lawns. Weighs just 3½ lbs. 10-inch cutting path.

18⁸⁸



No. 807 14"
Electric Line Trimmer
14" cutting path. Tap-N-Go line advance. 3 AMP permanent magnet motor. Weed Eater helps you win the battle of the weeds in your yard.

34⁸⁸

Gas-powered string trimmers are the most popular outdoor power tool next to lawnmowers— and for good reason. Their flexible monofilament cutting lines safely whisk away pesky weeds and grass blades that creep up around posts, between boulders and other places a mower can't reach.

They can also edge a clean, straight border along paths and flower gardens and, with the right accessories, clear away vines and even small saplings. And because there's no cord to plug in or battery to recharge, you can use them virtually anywhere, any time.

—Ken Morrison, “String Trimmer Savvy.” Build.com: The Building and Home Improvement Network. June 4, 1997.

*weed cutter*は、ナイロンコードを刃として使用する方式の芝刈り機を指す。

10. X-Acto knife

エグザクト・ナイフ (刃が薄く、取り替えが可能で、細かな細工に向く). □“Try an *X-Acto knife* for cutting out the pieces of the model airplane,” Mom advised. 「模型飛行機のピースを切り抜くんだったら、エグザクト・ナイフを使ってみなさい」と母さんが教えてくれた。 □“Use an *X-Acto knife* to trim away the rough edges on the plastic,” the directions said. 「エグザクト・ナイフを使ってプラスチックの凸凹の縁取りをすること」と、説明書には書いてあった。

この製品については、山田 (1990) にある。1本\$ 2.00 — \$ 25.00まで、各種のナイフがある。『ランダムハウス

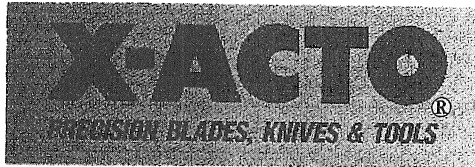
英和大』が、この商品の呼び方が [eksæktou] (エクサクト) のように示すのは誤りである。[egzæktou] (エグザクト) が正しい [Angela Pittman (Public Relations, Walthers)の教示による(1997年6月19日, 山田への私信)]。

Peter leaned over her and put his left hand gently on her forehead. In his right he held up an Exacto knife that hovered over her face.

—Lauri Maerov, *Copycat*. Signet, 1995, pp. 134–135

ピーターは娘にかがみこむと、左手をそっと頬にのせた。右手でナイフをつかみ、彼女の顔の上で構えた。

(羽田詩津子訳『コピーキャット』新潮社, 1996, p. 144) [下線部はいずれも筆者]



✦ All X-Acto knives are packed 12 per box (F) Rubber-Barrel Knife Easy-grip barrel for comfort, precision. Includes #11 blade, safety cap. No-roll design. HUN-X3724

以下, Bertram (1997) は収録していないが, われわれがアメリカ英語文化を理解する場合に必要と考えて取り上げた項目を若干取り上げる。

11. collard, collards, collard greens⁴⁾

コラード[アメリカ南部産の野菜で, kale(ケール: キャベツであるが結球しない)の一変種]。□When I boil my *collard greens*, I usually toss in a little bacon, for the flavor. 私がコラード・グリーンズを茹でるときは, フレーバーを付けるためにちよっぴりベーコンを混ぜ合わせます。□We had a quick lunch of cornbread and *collards*. 私達は, 急いでコーンブレッドとコラードのランチを取った。(cf. Bertram 1996; Hendrickson 1993)

つまり, 典型的にはアメリカ南部の食べ物に使われ,

この語は黒人を連想させる。したがって,

コラード(《キャベツの一変種; 食用》[『カレッジライトハウス英和』])

のような, 一般に英和辞典の記述ではあまり意味がないことになる。つまり, 次のような脈絡が理解できないことになるからである:

Tiger Woods said Thursday he was stunned by Fuzzy Zoeller's racially insensitive remarks, but believed no offense was intended and accepts Zoeller's apology.

Zoeller's remarks came in a CNN interview about an hour after Zoeller finished his fourth round in the Masters, which the 21-year-old Woods won by 12 strokes in becoming the first black to win a major title.

“That little boy is driving well and he's putting well,” Zoeller told CNN. “He's doing everything it takes to win. So, you know what you guys do when he gets in here? You pat him on the back and say congratulations and enjoy it and tell him not to serve fried chicken next year. Got it?”

Zoeller snapped his fingers, turned to walk away, then added, “Or collard greens or whatever the hell they serve.”

Woods, as defending champion, will get to select the menu for the Champions Dinner next year.

—CNN, April 25, 1997/Web posted at 12:45 a.m. EDT [下線は筆者]

黒人の大人に対して *boy* を使うことは, 極めて侮蔑的であり,⁵⁾

An insulting term for an adult black male that dates back to days of slavery and has become much less common in recent times.

(Hendrickson 1993, s.v. *boy*)

この場合も不用意であったことになる。さらに, *fried chicken* と *collard greens* が, 黒人の soul food に使われる典型的な素材であることから, Woods を侮蔑した発言につながったわけである。

Although this term [*ie* soul food] applies to traditional foods eaten by American blacks especially in the South, it is of recent vintage, circa the mid-1960s, when it became associated with the growth of ethnic pride in black culture, of which food was a significant part. The term comes from the fraternal spirit among blacks that their culture, heritage, and cooking gives them an essential “soulfulness” that helps define the black experience in America.

Soul food dishes include chitterlings, black-eyed peas, collard greens, hominy grits, ham hocks, and more. As Bob Jeffries, in his *Soul Food Cookbook* (1969), notes, “While all soul food, not all southern food is soul.”

(Mariani 1983, s.v. soul food)

確かに、*WBD* (s.v. collards)の引用にある、

in the South no word, as no dish, is better known ... than collards or greens (Transactions of the American Philosophical Association)

という引用例が役立つ。

また、Flexner (1976), Wilson and Ferris (1989, s.v. soul food)など。

12. 101

(大学の講義で、授業科目の後に付けて)～入門
[基礎]

*RHD*²が適切な定義と例を示す (s.v. 101):

Economics 101 (経済学入門)

It's Jungle 101 on a trip up the Amazon. (それはアマゾン河を上る旅をする際のジャングル学イロハである)

このことは、三輪(1996: 148-152)の説明を待つまでもない、まさにアメリカ言語文化の“101”だと考えてよい。

しかし、アメリカの大学教育の中では、特にENG 101やMATH 101は、この分野の基礎学力が十分であることが認められて初めて履習できる。Central Washington University (Ellensburg, Washington)のAcademic Regulationsを読むと以下のようにある。このことは、概ねどの大学でも同じである。

Proficiency Requirements

Students must demonstrate proficiency in writing, reading and computation prior to or during the first quarter of study at Central. Students with deficiencies in reading or writing must correct them prior to enrolling in ENG 101. Students with deficiencies in basic mathematics must correct them prior to enrolling in MATH 101 or above.

大学の講義とは関係なく、いわゆる基礎的な知識の習得に係わるような意味合いで使うことができることは、*RHD*²の例でも分かる。

“Are you listening?” he [*ie* Moldowsky] asked Dave Dilbeck.

“You said there’s a problem, I said I don’t see any problem.”

Moldowsky’s upper lip curled, exposing the small and pointy dentition of a lesser primate. He stepped closer to Dilbeck and said, “Do de name Gary Hart ring a bell? *Fuckups 101*—you need a refresher course?”

“That was different,” the congressman said.

“Indeed, Mr. Hart did not send anyone to the emergency room.”

—Carl Hiassen, *Strip Tease*. Warner Books, 1993, pp. 10-11

「聞いているのか？」モルデイがデイク・ティルベックにたずねた。

「あなたは問題があるといつて、わしは問題はないといった」

モルドウスキーの上唇がまくれあがって、霊長類とは思えない [訳者の誤訳—執筆者注] 小さくてとがった歯列がのぞいた。ティルベックのほうへ近づく。「ゲリー・ハート上院議員の名前はおぼえてるだろう？補習をうけなきゃわからないのか？」

「あれは話がぜんぜん違う」と、下院議員がいった。

「もちろん。ミスター・ハートはだれも緊急治療室へおくりこんだりはしなかった」

(北澤和彦訳『ストリップ・テイズ』(上). 扶桑社, 1995, p. 23)

Gary Hartは、1984年の民主党大統領候補者指名選挙に

出馬したが、妻以外との女性とのスキャンダルのために断念に追い込まれた、実在の米国政治家である。この小説に登場するDilbeck下院議員も、女好きがその政治生命を常に危うくしており、腹心のMoldowskyがやっきになって繕うところである。

そこで、「ヘマ学(Fuckups)入門」講座を受けて、政治家が政治生命を落とさないようにする講義を再履習する必要があるのか、と念押しされているところである。ちなみに、Fuckupsという架空の講座の名前に、-sが付いているのは、学問語の特徴で、絶対複数(plurale tantum)の例である。

13. yea

《副詞》[サイズ・高さ・広がりなどを表す形容詞の前に置いて] こんぐらいの(大きさ・高さ・広がり, など). □The thing was about *yea* big and sort of green. そいつは、こんぐらいの大きいやつで、緑っぽかった。□I'd say the fence was about *yea* high. そうだねえ、その柵はこんぐらいの高さがあったねえ。

この*yea*は、一種の指示副詞(demonstrative adverb)で、これを使う場合は、そのサイズなどを手を使って示すジェスチャーを伴うのが普通である。NDASは、

... perhaps fr *yea* "yes," specialized fr an earlier sense "even, truly, verily" to something like "even so, truly so, verily so"

が語源であろうとするが、1950年代に、特に黒人の間で使われ始めた表現だともする。もちろん、Harmon (1995) や Spears (1993) はきちんと収録している。

"I had a guy took a rat case for thirty-three, plus expenses."

...

"When you say rat ..."

"Baby Norway." With his hands Shad indicated the size. "About *yea* long. It was up at the Beef N' Reef in Wilton Manors. I open the steak sauce and there she comes, bingo, a rat! Lying there on my Rib-eye Special."

—Carl Hiassen, *Strip Tease*. Warner Books, 1993, p. 51

「ネズミの件のときは、33パーセント・プラス必要経費でやってもらったぞ」(中略)

「ネズミとおっしゃられたが...」

「ドブネズミの赤ん坊だ」シャドは両手で大きさを示した。「1年ぐらい前かな。ウイルトン・マナーズの〈ビーフン・リーフ〉で。ステーキ・ソースをあけたら、そいつが出てきたんだよ。ネズミが！おれのリーブ・ロース・スペシャルの上に横たわっていたんだ」

(北澤和彦訳『ストリップ・テイーズ』扶桑社, 1995, pp. 87-88) [下線は筆者]

もちろん、下線部は誤訳であり、この *yea big* や、それに伴うジェスチャーの特徴に、訳者が無知であったことになる。

14. skin the cat

AmE 1 (鉄棒で) 背抜き [えび抜き] をする [両手で鉄棒にぶら下がり、足を両腕の間に通してせり上がり、背中を下にして鉄棒を乗り越える] [OED², s.v. *skin* v. II. 4 .d. ; 『研究社英和大』 s.v. *cat*; 『ランダムハウス英和大』 s.v. *skin*, v. ; 『クラウン英語熟語』 s.v. *skin*]

2 《子供の遊びことば》最初は鉄棒に両ひざを折り曲げてぶら下がり、身体を揺らし、勢いを付けて鉄棒の上にせり上がり、両足で着地する。□The other kids watched Sally *skin the cat* from the horizontal bar. 他の子供たちは、サリーが鉄棒で「猫の皮剥ぎ」をするのをじっと見ていた。□Jimmy was the best at *skinning the cat*. ジミーは「猫の皮剥ぎ」がみんなの中で一番うまい。(Bertram 1997).

「物事にはやり方が一つではなく、いろいろある」ということを意味する諺に、

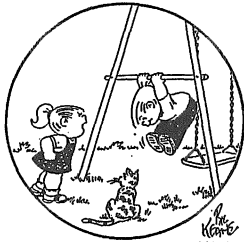
There's more than one way to skin a cat.

があり、古くは1678年に記録されており、アメリカでは、*John Smith's Letter* (1839) に出てくるといふ(Titleman 1996)。また、変種も少なくない。

"There's more ways of killing a cat than choking him to death with butter," giggled Mealanie when the whiskered old man had thumped down the stairs. —Margaret Mitchell, *Gone With the Wind* (1936)

このアクロバットのな子供の遊びが“skin the cat”と呼

ばれて生まれたのは、1845年頃だとされる(*cf.* Funk 1948) [OED²の初例も同じ年代]。



"Anyhow, Billy, it's not nice to say 'skinning the cat' in front of Kittycat."

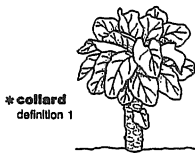
-Bill Keane, *Family Circus*

「とにかく、ヒリー、ネコちゃんの目の前で“猫の皮剥ぎをやる”なんて言っちゃあ駄目だってば」

この漫画は、この間の表現の意味用法を理解しなければ、絵と吹き出し（「とにかく、ヒリー、ネコちゃんの目の前で“猫の皮剥ぎをやる”なんて言っちゃあ駄目だってば」）も分からないということである。

Notes

- 1) 『ランダムハウス英和大』が「英ではfum bagともいう」(s.v. *fanny pack*)は単純な誤植。ただし、書記形式にも問題はある。複合語として'solid'な語形がよい。
- 2) この*rumptaske*はNorwayでの呼称である(AS 65:1)。『リーダーズ・プラス』はそのことを明記しなければ誤解を招く。
- 3) *Dumpster*については、山田(1993)を参照されたい。
- 4) 再考が必要かと思われる。つまり、*WBD*が、*kale*の一種としては*collard*、それを食用にする場合は通例は*collards*とするのは、意味があるのではないかと思われるからである。



n. 1 a form of kale. -WBD

- 5) *Lighter* (1994) は、*Disparaging and Offensive*. a man considered to be inferior in race, nationality, etc. (s.v. *boy 6*) と、明確に定義する。

References

- (i) ([] 内は本論で使用した略語)
- Cambridge International Dictionary of English*.
Cambridge: Cambridge University Press, 1995.
[CIDE]
- Chambers 21st Century Dictionary*. Edinburgh:
Chambers, 1996. [Chambers 21st]
- Longman Dictionary of Contemporary English*. 3rd
edition. Harlow, Essex: Longman, 1995. [LDCE³]
- The Newbury House Dictionary of American English*.
Boston: Heinle & Heinle, 1996. [NHD]
- The Random House Dictionary of the English
Dictionary*. 2nd edition. New York: Random House.
1987². [RHD²]
- Random House Webster's College Dictionary*. New York:
Random House, 1995. [RHWCD]
- The World Book Dictionary*. 2 vols. Chicago: World
Book-Childcraft International, 1982. [WBD]
- 『カレッジライトハウス英和辞典』研究社, 1995.
[『カレッジライトハウス英和』]
- 『小学館ランダムハウス英和大辞典』第2版, 小学館,
1994. [『ランダムハウス英和大』]
- 『新英和大辞典』第5版, 研究社, 1980. [『研究社英
和大』]
- 『新クラウン英語熟語辞典』第3版, 三省堂, 1986.
[『クラウン英語熟語』]
- 『リーダーズ・プラス』研究社, 1994.
- (ii)
- 田崎清忠 (1994), 『アメリカ日常語辞典』講談社.
- 飛田茂雄 (1997), 『いま生きている英語』中公新書 1364.
中央公論社.
- 三輪裕範 (1996), 『通のアメリカ英語』丸善ライブラリ
- 202. 丸善.
- 山田政美 (編著) (1990), 『英和商品名辞典』研究社.
—— (1993), 『現代アメリカ英語を追って』こびあ
ん書房.
- (1994), 「書評: 田崎清忠 (編著) 『アメリカ日
常語辞典』」, 『現代英語教育』第31巻, 第3号, 1994年
6月, pp. 58-59.
- (1995), "Bounty is a pickup truck. -Not!"
『英語教育と英語研究』第12号, pp. 23-55.
- (1996), 「翻訳の思わぬハードル 固有名詞」
『翻訳の世界』第21巻, 第3号, 1996年2月, pp.

- 12-13.
- (1997), 「書評：飛田茂雄『いま生きている英語』中公新書, 『英語青年』第143巻, 第7号, 1997年10月, pp. 44-45.
- 山田政美・田中芳文 (1988), 「英語日常語彙の社会言語学的研究」, 『島根大学教育学部紀要』(人文・社会科学編) 第22巻, 第2号, pp. 1-8.
- (1989), 「英語日常語の意味と文化」, 『島根大学教育学部紀要』(人文・社会科学編) 第23巻, 第2号, pp. 35-42.
- (1996), 「現代アメリカ文化の中の固有名詞」, 『島根大学教育学部紀要』(人文・社会科学科編) 第30巻, pp. 37-51.
- Bertram, Anne (1997), *NTC's Dictionary of Common-place Words in Real-Life Contexts. An Essential Guide to the Everyday Objets in American Life*. Lincolnwood, Ill.: NTC Publishing Group.
- (1996), *NTC's Dictionary of Folksy, Regional, and Rural Sayings*. Lincolnwood, Ill.: NTC Publishing Group.
- Cassidy, Frederic G.(ed.) (1991), *Dictionary of American Regional English*. Vol. II, D-H. Cambridge, Mass.: The Belknap Press. [DARE]
- (ed.) (1996), *Dictionary of American Regional English*. Vol. III, I-O. Cambridge, Mass.: The Belknap Press. [DARE]
- Chapman, Robert L. (ed.) (1986), *New Dictionary of American Slang*. New York: Harper & Row. [NDAS]
- Flexner, S.B. (1976), *I Hear America Talking*. New York: Van Nostrand Rinehold.
- Funk, Charles E. (1948), *A Hog on Ice*. New York: Harper & Row.
- Gloag, John (1990), *A Complete Dictionary of Furniture*. Revised and expanded by Clive Edwards. Woodstock, New York: The Overlook Press.
- Harmon, Ronald (1995), *Talkin' American: A Dictionary of Informal Words and Expressions*. Boston: Signal Press.
- Hendrickson, Robert (1972), *The Dictionary of Eponyms*. New York: Dorset Press.
- (1993), *Whislin' Dixie. A Dictionary of Southern Expressions*. New York: Facts On File.
- Lighter, J. E. (1994), *Random House Historical Dictionary of American Slang*. Vol. I. New York: Random House.
- Mariani, John F. (1983), *The Dictionary of American Food and Drink*. New York: Ticknor & Fields.
- Spears, Richard A. (1993), *NTC's Dictionary of American Slang and Colloquial Expressions*. Lincolnwood, Ill.: National Textbook Company.
- Titleman, Gregory Y. (1996), *Random House Dictionary of Popular Proverbs and Sayings*. New York: Random House.
- Trudgill, P. and J. Hannah (1994²), *International English: A Guide to the Varieties of Standard English*. London: Edward Arnold.
- Wilson, Charles R. and William Ferris (eds.) (1989), *Encyclopedia of Southern Culture*. Chapel Hill, North Carolina: The University of North Carolina Press.
- (iii)
- AS = *American Speech*. A Quarterly of Linguistic Usage. Publication of the American Dialect Society.